発議案第10号

中川幹太市長に対する不信任決議について

地方自治法第178条第1項の規定により、中川幹太市長に対する不信任議決をされるよう別紙のとおり決議案を提出する。

令和6年9月2日

提出者	上越市議会議員	滝 沢 一 成
賛成者	同	上 野 公 悦
	同	本 城 文 夫

中川幹太市長に対する不信任決議

中川幹太市長は、就任以来、度々、不適切発言や不当な発言を繰り返し、その都度、謝罪、釈明及び撤回を行ってきた。市民の期待と信頼を裏切る言動は目に余るものがある。

具体的には、令和4年4月の若手経営者グループとの意見交換会における高田・直江津の中心市街地・商店街に関する発言、令和5年7月の県内経済団体との会合における市内の私立高校に関する発言、令和6年6月の上越市議会6月定例会一般質問における市内事業所及び市民に対する発言などが挙げられる。

不適切な発言や不当な発言で市民に心痛や不快感を与えながら、その都度、反省を口にしてはいるが、反省を次に活かす、教訓とするという姿勢が見えないまま、今日に至っていることは、中川幹太市長が本質的に偏見や差別意識を持っているのではないかとさえ感じることを禁じ得ない。

県内第三の都市である上越市のトップとして、また、市民の模範となるべき立場にある市長として、市政の混乱と市民の信頼を失墜させたことに対する政治的、道義的な責任は免れ得ないものであり、市民のために一日も早く市政を通常の姿に戻さなければならない。

然るに、7月19日の臨時議会において辞職勧告決議が議会から提出され、四分の三以上という圧倒的多数の議員の賛成により可決されたが、市長はその議会の意志を尊重せず、8月23日辞職しない旨を当市議会議長宛の文書により通告してきた。その文書によると、任期終了までの職務継続を宣言し、「私自身の戒めとしては、今後、公職の候補者でなくなった際に対応する」などと公職にある者としては全く責任感を感じさせない姿勢を示している。このことは、辞職勧告を決議した当市議会を軽んじているばかりか市民の信頼を踏みにじる行為である。

よって、上越市議会は中川幹太市長を信任することはできない。

以上、決議する。

令和6年9月2日

上 越 市 議 会